

# 映像によって目的や場面を生かした聞き取り例

～コミュニケーションの相手意識を高めるために～

取組の 難易度	(準備)	★ ★ ☆
	(教員のICT活用能力)	★ ☆ ☆
校種・学年	中学校・全学年	教科等 外国語（英語）
ICTを活用した 学習場面	A1 教員による教材の提示 B1 個に応じる学習	領域・ 分野等 聞くこと 書くこと
ICT 機器等の 準備等	準 備	①ビデオカメラ等（録画ができるもの）、三脚等 ②動画編集ソフト ③学習活動ソフトウェア（書き込み用）
	授 業	①提示用大型モニター（スクリーン・プロジェクター） ②学習者用PC（タブレット端末）、指導者用PC

## 1 事例の概要

日本にホームステイに来る予定の Native Speaker が、日本での生活についての心配事を話す、という場面設定である。生徒は聞き取るポイントをディクテーションし、その Native Speaker が安心してホームステイを過ごせるように適切なアドバイスを考え、書き、仲間と紹介し合い自身のアドバイスをより良くしていく、という活動である。次時は自身のアドバイスを Native Speaker に伝える計画である。

※利点○、配慮事項●

## 2 ICT 活用の利点や配慮事項

- 大型モニターで映すことにより生徒全員の顔が上がる。教師が生徒に目を向け、個々の反応から聞き取り状況を把握することができる。
- Native Speaker が話す様子を映像で示すことにより、生徒の相手意識がぐんと高まる。
- 手元のタブレット端末でも動画を再生できるようにし、生徒は個々の聞き取りの差に応じて繰り返し聞いて内容を確認することができる。
- 音声字幕を入れることにより、聞き取りにくい箇所の内容確認も個人の能力に応じてできる。
- イヤホンがあるとタブレット端末からの音声が聞き取りやすい。

## 3 資料

### 学習者用PC（タブレット端末）の活用例

- 1 自分で考えたアドバイスを、タブレット端末内の学習活動ソフトウェアに入力し、学級全員で共有できるようにする。目標は「聞くこと」「書くこと」としているので、必ずしも対話を求める必要はない。
- 2 活動途中の指導として、自分が良いと思った表現や、参考にした表現を学習活動ソフトウェアで共有することで、作業が進まない生徒の一助とすることができる。
- 3 生徒は仲間の文を参考にして、自分のエラーに気付いたり、書きたかったが書けなかったことを仲間の表現を借りて書き換えることができる。
- 4 活動する必要感をもたせるため、「伝えたい」という思いを十分に高めた上で取り組ませる。